

## 日本の航空機を発展させたアルミニウム合金開発の痕跡

登録番号	第 00363 号		
登録年月日	2023 (令和5) 年9月12日	登録区分	第二種 (単一又は極めて少量生産されたもの)

名称 (型式等)	【日本における航空機用アルミニウム合金開発初期の資料類】 (1) 超々ジュラルミンをはじめとするアルミニウム合金開発に関する研究報告書 (2) 航空機用プロペラブレードの鍛造金型 (3) 海中から引き揚げた零式艦上航空機 (五二型) の一部
所在地	愛知県名古屋市 株式会社UACJ
所有者 (管理者)	株式会社UACJ
制作者 (社)	(1) 住友伸銅所、住友合資会社伸銅所、住友銅管株式会社、住友金属工業株式会社 (2) 住友金属工業株式会社 (3) 三菱重工業株式会社、中島飛行機株式会社
製作年	(1) 1920年頃～1945年 (2) 1940年～1945年頃 (3) 1943年～1945年
初出年	(1) 1920年頃 (2) 不明 (3) 1943年 (五二型)
選定理由	日本の航空機用アルミニウム合金開発初期の資料類である。(1) 1913 (大正2) 年、住友伸銅所は農商務省技師杉浦稠三を招き、研究課を工場内に設置した。膨大に残るアルミニウム合金開発の研究報告書には、世界最高強度の超々ジュラルミンなどの開発経緯や実験結果が、克明に記録されている。(2) 零戦など、戦闘機向けプロペラブレードの熱間鍛造用金型である。(3) 戦後、海中から引き上げた零式艦上戦闘機 (五二型) の一部。分析の結果、主翼桁に超々ジュラルミンを確認した。技術の歩みを示す資料として重要である。
登録基準	一ーイ (科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの) 一ーロ (国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの)

公開・非公開	(2) 公開 (1) (3) 非公開
--------	--------------------

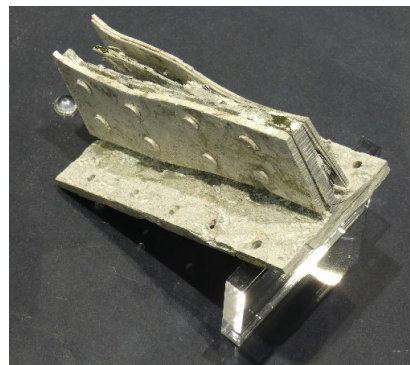
### 写真



(1) 超々ジュラルミンをはじめとするアルミニウム合金開発に関する研究報告書



(2) 航空機用プロペラブレードの鍛造金型



(3) 海中から引き揚げた零式艦上戦闘機 (五二型) の一部

その他参考となるべき事項